

未熟を生きる

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2739号
(2011年4月30日発行)より

このところ、しみじみ、これまでの自分が、
いかに被害者意識のなかで生きていた
かということ、感じています。何か特別
なきっかけがあって感じているわけでは
なく、ふっと、目の前のおおいがはずさ
れたという感じです。

はずされて、見ると、これまで見えてきた
景色が、まるでちがって見えてきます。
自分が不遇な立場にあると思っていたこ
とも、自分がそれに値するだけのことし
かしていなかった結果であることが、納
得できるのです。

ひとから批判されて、それを不当に感じ
る自分がいたのですが、いまになって
考えてみると、なるほど、言われたとおり
だったなあと、素直に受け止められるの
です。

それでいて、不思議に、自己嫌悪といっ

た感情は湧いてこないのです。あのとき
は、そうでしかいられなかったのだなあ
と、淡々と思うのです。

未熟な自分がいて、その、未熟な自分を
受け入れることができなくて、目隠しをし
ていたのです。その目隠しが、はずれ
たということでしょうか。

はずれたということは、もう、見るだけ
のちからがついたよというお知らせ
でしょうか。あるいは、もういかげんに
見なければだめだよという、お叱り(誰
が?)でしょうか？

いずれにしても、過去の自分が、あらわ
に見えてきて、見えてきた結果、感じる
のは、それでも受け入れてきてくれた、
まわりのひとたちへの感謝の気持ちな
のでした。

ひとだけでなく、ありとあらゆる存在にた
いする、感謝の気持ちなのでした。その
感謝の気持ちが、ひたひたと満ちてきて、
生かされているというのは、こういうこ
なのだろうなあと、静かに、感じている
のです。

そうして、もうひとつ思うのは、ひとは、そ
うして、未熟を生きる生きものであり、未
熟そのものが、生きるプロセスなのだと。
そんなふうにも感じるのです。

さらに、もうひとつ思うのは、この、未熟
を生きていることに気づくこともまた、プ
ロセスの一環なのだと。すべてはあらか
じめプログラミングされていることなのだ
と。まったく根拠はないのだけれど、そ
んなふうに感じてならないのです。

そしてそれゆえに、私は、自分の未熟さ
をゆるすことができ、同時に、ひとの未
熟さをも、ゆるすことができるような気が
したのです。

今日のメッセージは、誰かに伝えるとい
うよりは、自分自身の確認のような感じに
なってしまいましたが。

もしも、これを読んでくださっているあな
たが、自分をゆるしていないとしたら、そ
のゆるしにつながるきっかけになってほ
しいと、願わずにはられません。

私たちは、未熟なのです。未熟というプ
ロセスを歩むように、プログラミングされ
ているのです。

だから、ゆるしていいのです。自分をゆる
し、自分をゆるすように、ひとをゆるし
ていいのです。ゆるしあえるようになるこ
とが、プログラムの目的なのです。その
ために、あえて、未熟を生きるようにでき
ているのです。

…と、なぜか、断定型で書いてしまいま
したが、書いてしまいたくなかったので、
書いてしまいました。これが仮にまちが
いであったとしても、未熟ということで、
どうぞ、ゆるしてくださいませ♪

…あれ、ゆるしの使いかた、ちがって
ますか？(笑)

●日刊メールマガジン「今日のフォーカス
チェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、
2003年11月1日創刊。2011年3月、
2700号達成。3秒読める携帯版もあり。
無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>